



美しく切り取られた映像を追って
8000キロの旅にでた

作物の作られない畑地を走り
おもちゃが散乱したままの幼稚園を訪ねた

コバチ村、チェルノブイリ原発から5キロ
かつての村の存在を示すモニュメントだけが残っている

人のいない村で感じた戦慄は
豊かな大自然に追想の記憶を添えた
泉ツアーは参加したひとり一人の内で想像されていく

特集

2003年JCF泉ツアー —大地と村人の笑顔に会う—



57号 秋

CONTENTS

特集 2003年JCF泉ツアー

- 大地と村人の笑顔に会う— 5
第69次訪問団報告<廣浦学> 17

「チェルノブイリの祈り」 19

JCF講座
「原発にたよらない暮らし方を見つけよう」 22

エレナ先生松本日記 30

モスクワ便り 34

ベラルーシの食卓 35

連載随筆「新たなる価値」<宮尾彰> 36

ジーマのロシア小話 38

振替用紙のメッセージから 40

マリア基金報告 43

ありがとうございました 44

出会い Встреча 46

Здравствуйте! (事務局広場) 52

ニュースクリップ 54

本の紹介 Book review 56

「アレクセイと泉」上映予定 58

事務局日誌 59

私がツアーに参加したのは

「ナージャの村」「アレクセイと泉」
の上映会をして、行ってみたかった。
泉の水を飲んでみたい。
わずらわしい日常から、あのゆったりした時間の流れに
身をおきたかった。(峰村富士雄)

ナージャ本人からの手紙
を英訳し、日本の映画を生徒達と共に鑑賞し、二人に送るメッ
セージをPCで製作する中で21世紀の若者にツアーに参加してもらおうと
SARSの事もあったが「先生も行くから一緒に行こう」と英語のクラスで誘
いをかけた次第です。チェルノブイリ・本橋監督と上映会・森のパ
ーティと魅力は大きかった。(寺島勇輔)

映画を観ながら自然の中での本当の自然生活を私もしたい、
ここに住みたい、とさえ強く思ったからです。(福永佐和子)



2003年JCF泉ツアー ——大地と村人の笑顔に出会う——

7月23日、スタディツアーの一行22人が成田空港を出発した。モスクワから
通訳さんら3人が合流し、25名の旅となった。モスクワの空港でのトランジッ
ト乗り換えに4時間待ち、ウクライナの首都キエフのホテルに着いたのは、深
夜になっていた。この日から、振り返ってみると8日間、午後10時前にホテル
に戻った日は1日となく、強行日程の旅だった。

猛暑の中を三カ国まわり、30日、再び曇天の成田に戻り、まだ梅雨が明けて
ないのを知って驚いた。

今年のツアーは、チェルノブイリ原子力発電所の見学とフジシチエ村での野
外上映会がメインだった。原発の解体計画には、だれも納得できなかった。一方、
映画「アレクセイと泉」を見て、現地を訪れたいと参加された方が、大半だっ
たので、泉の前の広場での上映と村人との交流会は、思い出深いものになった。
満天の星のもと、イワンさんの家の壁にスクリーンを張った。フィルムが回り
始めると村人たちは大喜び、「あれは、家の馬だよ」「ばあさんが、写っているよ」。
ニーナおばあちゃんは、イワン爺さんとの浮気問答に笑いっぱなし、出演した
村人と肩を並べて見る「アレクセイと泉」は圧巻だった。



子ども達（村人じゃないかな？）は、やさしく、素直な子が多く、楽しかった。お年寄りの人たちも心を開き、温かい人たちだと思う。ほんもののアレクセイもとても良い人だ。

- ・ 泉は思っていたほど美しくなかったが、とても美味しかった。
- ・ 村人達が大喜びで見ていて、上映会をやってよかったと思う。「アレクセイと泉」の存在価値、この映画の必要性を今更ながらに思う。

（多賀さゆみ）

村人との交流は大変楽しかった。素朴な村人とコトバはわからなくても、親しくなれた。アレクセイの家にニーナが案内してくれ、嬉しかった。屋外上映会では、戦後、近くの小学校の校庭で、夜、映画会があったことを思い出した。村人と草の上にすわって映画を見たこと、よい思い出。夏休みに帰ってきた（遊びに来た）子ども達と一緒に折り紙できて楽しかった。（山浦恵津子）



ブジシチェ村上映会



村人との交流は素敵でした。欲をいえば、楽器があって踊ればサイコーでしたが・・・パーティのお食事、おいしかったですね。じゃがいも・ピクルス・牛乳ごはん・・・皆さん立っていましたが、私はシートに座り込んでしっかりいただきました。映画では、泉の冬のシーンが多かったでしょう。真夏の泉、ちょっと印象が違いました。泉の水、つめたく、おいしかった。溝田さんが、ペットボトル4本の内、1本を下さいました。屋外上映会、蚊は思ったより大したことなかったですね。上映したことは、本当に良かったです。180度満天の星、生まれてはじめて見ました。村の風景は私の視野で見るのと、映画のカメラでとらえるのと、ずいぶん違うのだと、やはり、映像芸術のすばらしさを思いました。村へ入る林の中の道、バスが揺れ、全くうまく撮れなくて残念。

（沢村和代）



アレクセイのナレーションはとても印象的でした。屋外での上映の企画はすばらしい！村人たちもすっかりリラックスしていました。

（河東あや）

核とおさらばしたい

溝田一成（広島県）

泉ツアー各地の放射線測定値（2003年7月23日～7月30日）

（ウクライナ製簡易放射能検知器による）

場所	測定値 Sv/h	比較 倍	年間 mSv
自然界から受ける放射線量			1
東京	0.06	1	0.5256
飛行機内（東京～モスクワ）	1.88	31	
モスクワ空港	0.21	3.5	
キエフ市内ソフィア寺院内庭	0.3	5	
10キロ圏内幼稚園内	0.69	11.6	
10キロ圏内幼稚園の外の森	3.6	60	
チェルノブイリ原発展望台内	4.66	77	40.775
ブジシチェ村に入る森	1.91	32	16.73
ブジシチェ村広場	0.17	2.8	1.49

チェルノブイリ原発展望台内設置モニター計器の測定値は1.8マイクロレントゲン/時間



「原発いらん！下関の会」の人たちなどで今年1月に上映会が行われ、大きな反響と感動を呼んだ「アレクセイと泉」の村を訪ねる旅に参加して来ました。泉の修理に、村人が斧一本で組み込みをし、木杵を合わせてしまう技術にはほれぼれしていたので、そんな人々の住む村を訪ねられることにわくわくしての出発でした。放射能が心配で、簡易放射能検知器を購入していたのを持参して、常時測定もして回りました。

チェルノブイリ原発周辺150キロの都市や村では、日本の通常値の2倍から3倍でした。原発から30キロゾーン（立入り禁止地区）の、また、その中の10キロゾーンにある幼稚園の廃墟を案内されました。中は当時のそのままになっていて、本や遊び道具が散乱したままでした。その森の中ではなんと約60倍の検出もしたのです。

いよいよ原発に近づきます。検知器の測定値はだんだん上がってきます。案内された原発の100m近くの展望所では（灰色の石棺が真正面に見える所）約80倍の検出もありました。しかし、何の音もしない石棺の近くではゆっくりと作業している人も見えます。あの世界を震撼させた原発事故そのものなのかと不思議に思えるほどでした。同行の金さんも持ってきたネッカチーフをマスク代わりにするほどの警戒を、はずすほどの静かな状態でした。しか

し、7年前には、10キロゾーンに入る時は、下着以外は全部着替えて原発に入る特別服を着用しなければならなかったことから大きく変わっているようです。原発事故から17年目になり、その間の除染作業結果なのか、自然現象の雨や嵐、雪で洗い流されたのかと想像するしかありませんでした。

翌日は、埋葬された村（映画「ナージャの村」を訪れ、レンガ造りのペチカだけが残って無残な風景に出くわしました。夕方はナージャの家族を交えて、河畔の森でパーティーになりました。河原にはパーティーを楽しんだ跡があり、一時の夏を楽しむ雰囲気を感じました。

次の日、ブジシチェ村に入りました。村に入る森の道は30倍の放射能を計測します。村は3倍程度に落ちつきます。村は砂地の道で、馬の糞が落ちていたりする牧歌的なステキな所です。広場で待っていてくれた村人とは、抱き合い一瞬のうちに打ち解けあいます。こんなと湧き出る泉もすぐそこです。冷たい、口に含むとまろやかな味が感じられます。ペットボトルに入れ持ち帰ることにします。

入院している子どもに会い、持って行った折り紙で鶴や風船などを折って遊びました。2歳くらいの子に、やっこさんを折って似顔絵を描いてやると喜んでくれ、風船を投

若者の新たなる旅の始まり

長野県塩尻市に武蔵工業大学第二高校がある。昨年11月、一通の手紙が届いた。手書きのロシア語で書かれた手紙は、ベラルーシ共和国チェチェルスクからだった。差出人は、ナジェージダ・ユラーノワ、映画「ナージャの村」のナージャだ。先生達はびっくりした。2年前、手紙を書いた生徒達は、もう卒業していた。



1999年の夏、JCFのスタディツアーに高校生が3人参加した。その一人が、岡本圭史君。岡本君のお父さんは臨床工学技士でJCFの医療機器プロジェクトに参加していた。環境問題に関心のあった岡本君はツアーから帰ると、高校で「ナージャの村」を紹介した。ビデオを見た生徒達はナージャに手紙を書いた。2000年冬、ナージャのもとに手紙を配達したJCFも返事が郵送されてきたことにびっくりした。

この6月、松本での「ナージャの村」「アレクセイと泉」の上映会に、同高校の先生方、生徒達が



大勢参加し、映画でベラルーシの村人達と出会った。その頃、募集していたスタディツアーに寺島勇輔先生と3年生の古屋大亮君が参加を決め、泉ツアーで映画の主人公達との出会いが実現した。

映画撮影当時8才だったナージャは、今15才。一段と成長していた。上映会のために同行した本橋監督が「ナージャはどこにいるの？」といぶかしがった程、大人になっていた。寺島先生と古屋君は、高校の仲間達からのメッセージファイルをナージャに渡した。高校の説明や自己紹介など、PCでデザインした個性豊かなナージャへの挨拶だった。古屋君は、森のパーティでも、ナージャと並んで散歩していた。ドイツ語を第二外国語で習ったナージャと「何語で話しているんだろう」と、大人達は後ろからやっかんでいた。

古屋君はツアー後、事務局まで何度も通い渡航レポートを仕上げた。レポートと同時にナージャにも手紙を書いた。若者達の交流は、続いている。

武蔵工業大学第二高校の図書委員会が中心になって、今秋の文化祭にチェルノブイリを取りあげることになった。パネル展示と新たにみんなで交流を呼びかけるものだ。準備のために図書部員と顧問の桜井先生、杉村先生が事務局にきて話し合った。

「募金以外に僕たちにできることはありますか？」

「みんなで文化祭のテーマとして取り組むこと、そして、ナージャとの文通を続けていくことで、充分です」。

関わりにはさまざまな形があると若者達が見せてくれた。（事務局・神谷）



泉ツアー行程

- ・ 7/23 成田発
- ・ 7/24 キエフ
- ・ 7/25 チェルノブイリ原発
- ・ 7/26 森のパーティー
- ・ 7/27 ブジシチェ村上映会
- ・ 7/28 ゴメリ州立病院
- ・ 7/29 モスクワ発
- ・ 7/30 成田着

スタディツアーを振り返って

総勢 25 名のスタディツアーは初めてだった。この人数に対して、体制をどう組んだらいいのか、帰国後、参加された方からのアンケートをまとめた。

1 参加者がそれぞれ役割分担を担う

東京で、1 回行った事前学習会では、遠方の方や都合のつかない方は、ツアー全体の流れを前もって共有することができない。参加した方も、17才から79才、渡航経験も初めての方から、経験豊富な方まで多彩だった。それぞれにバランスのよい情報を発することができなかったことを、反省する。初日は皆さんの顔合わせをしながら、役割分担と情報ルートを確認する時間が必要だった。

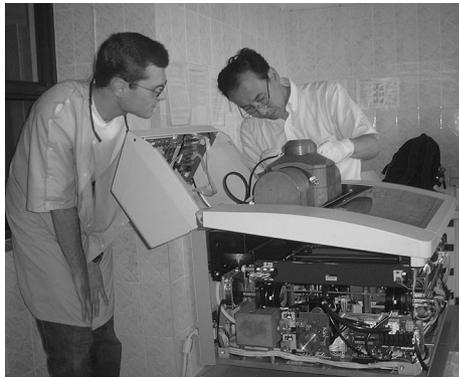
2 ハプニング時の状況説明が必要

チェルノブイリ原発を見学し、ベラルーシに入国し、ゴメリに到着するまで9時間以上かかった。このことは、事前にわからなかった。通関もこちらに不備があったわけではないのに、2時間30分以上もかかってしまった。事務局は、こんなことはこの国ではよくあることと、事態になれきっており、皆さんに説明しなかった。長いバス道中を活かす工夫が必要だった。

3 食事の量と食事時間のずれたときの対応

ロシアの食事の量の多さと時間をかけるのには、私たち日本人にはとても困ります。こちらがどんなに早くしてほしい、少なくても、お願いしても、理解してもらえません。「もったいない」と思われた方が、何人もいました。ロシアの伝統的な食事作法のコースです。前菜だけで、私たちには充分です。更にスープとメインディッシュと続く食べられないままにテーブルの上にお料理が並んでいきます。年齢・性別によって量は一樣ではありませんが、できるかぎり融通の利く注文を心がけます。

NGOのスタディツアーということについて、帰国後、改めて考えさせられた旅でもあった。民間旅行社が企画する旅ではない。参加者がそれぞれの問題意識から視察し、実体験をするプログラムを作っていくことが必要であろう。細かなことも含めて、事前学習・事前アンケートなどをもっと重視し、取り組んで行くことが大切だ。次年度からは取り組みの出発から、考え直してみようと思っている。
(事務局・神谷)



第 69 次訪問団報告

廣 浦 学 (臨床工学技士)

7月14日 成田よりフランクフルト経由ミンスク空港へ医療機器チームの西澤英次さんと二人旅となった。若干心細く英語もドイツ語も勿論ロシア語も覚束ない二人にとって多難な訪問の開始である。

15日 ミンスク空港到着後直ちに小児血液がんセンターへ向かう。正直言っても自信がない私は前途多難を覚悟していた。しかし空港で出迎えてくれたロシア人通訳のイリーナさんの笑顔に救われた感を覚える。

液体シンチレーションカウンターのメンテナンスを実施
前回信大チームが動作試験を実施したが故障原因が特定できず、今回持ち越しとなる。

我々は出力信号ケーブルなどの不具合い・高圧回路・信号変換回路に絞って原因を探し現地での特定が可能であれば装置の部品交換を次回に委ねる予定であった。幸いにも今回、偶然

に本体装置下部より出力信号ケーブルの弛みと高圧ケーブルの接続不良を発見し、それらを元通りに修復し再度プログラムを入力し動作試験を実施したところ本来の動作確認を得た。しかしプログラムメモリーは残念ながらバッテリー電池消耗のため寿命を終えていた。重大な故障ではなく命拾いを感じではあるが、現地では心細いものである。確認データを日本にFAXし結果を待った。翌日返事が来た。OKが一安心である。

次回からはこの装置を用いた測定を信大チームに委ねたい。

16日 ミンスクからゴメリへ移動
午後ゴメリ腫瘍病院へ到着。昨年送った医療機器の組み立て準備と担当医(タチヒン医師)との打ち合わせ。送った医療機器はまだ梱包のままであり、ゴメリ州立病院のような勝手に荷物を空けるようなこともなく倉庫の中に埋もれていた。しかし、荷物を確認する

チェルノブイリの祈り



10月15日(水) 18:30～
松本市あがたの森文化会館講堂



につれて確かに州立病院の倉庫にあった状態とは異なり紛失している機材が多く途方に暮れた。

17日 医療機器の組み立て設置・説明を実施

送った医療機器の数点に部品が行方不明で組み立てに苦慮したが代用で事無きを得る。

基本的に紛失した部品は州立病院小児科の(ミーシャ医師)よりお借りして説明し腫瘍病院(タチヒン医師)次回の渡航時、直接受け取ることで理解して頂く。このことを州立病院の副院長に伝えた。

18日 午前中は腫瘍病院にて残りの機器の設置・説明

腫瘍病院のスタッフに機器の説明をする。ベラルーシに留学している近藤君(前回の渡航で知り合った学生)が同行してくれた。彼は日本人唯一の留学生らしくミンスク州立大学で国際関係論を勉強している。ポランティア活動にも興味があるらしく今回現地より参加頂いた。また彼はこの国で入院経験もあり悲惨な思いを語ってくれた。学生の情報はホントに面白い!大統領の息子と同級生であったとか、どんな国から留学生が来るのか?とか多岐に渡り話が続く。

午後、州立病院

産科新生児科にて次回支援品についての説明と現地医師(セルゲイ医師)からのリクエストを聞く。更に小児血液病棟(ミーシャ医師)と打ち合わせ、日本より預かった贈り物を渡す。またセルゲイ医師のご好意により産科・新生児科内を案内され現在不足している機器や現状、特に未熟児室での重症児など原発事故後遺症との因果関係を語って頂いた。重症未熟児は増えているので、それに対応できる機材・検査機器など早急に必要であることは間違いない。

ミーシャ医師も現在早急に治療したい患者がいるらしく、機材の不備を指摘する。ポランティア団体にとって一番泣き所を突かれたのだ!

出来るだけ早急に対応することを伝え今回の訪問を終える。

チェルノブイリを目撃したジャーナリスト

あきらめないでチェルノブイリに関わり続ける医師

存在をかけてチェルノブイリを語りおろす講談師

出会いの今、時空を越えて 祈りよ届け！

第二部 講談「チェルノブイリの祈り」

神田香織（講談師）

福島県立磐城女子高校卒業後、東京演劇アンサンブル、渡辺プロダクションドラマ部を経て1980年神田山陽門下生となる。二ツ目以降、ジャズ講談や一人芝居の要素を取り入れた神田香織独自の講談を次々発表、講談の新境地を切り開いている。1986年「講談はだしのゲン」公演で日本雑学大賞受賞。1994年いわき市に居を移し、地域に残る民話や伝説を演劇や講談で掘り起こすなど地域興しに貢献。また、全国でも珍しい定席を市内に開設。主なオリジナル作品は「はだしのゲン」「新釈四谷怪談」「いわき発安寿と厨子王物語」「磐城平藩主 安藤対馬守信正見参」「和田啓十郎伝」「瓜生岩子物語」など多数。激しく哀しい愛の物語「チェルノブイリの祈り」で孤独な人間の声を渾身の力を込めて伝える。

<http://www.ppn.co.jp/kannda/main.html>



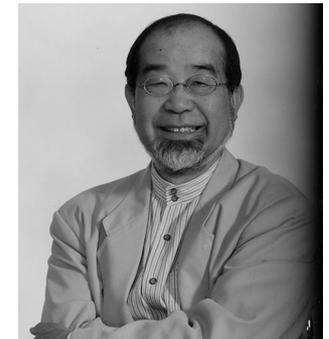
第一部 トーク&メッセージ

スベトラーナ・アレクシェービッチ



1948年ウクライナ生まれ、国立ベラルーシ大学卒業後、ジャーナリストの道を歩む。200万部を重ねた「戦争は女の顔をしていない」をはじめ、「最後の生き証人たち」「亜鉛の少年たち」（邦訳『アフガン帰還兵の証言』日本経済新聞社）など。戦争の英雄神話をうちこわす著書を発表し、絶えず権力から抑圧や干渉を受けてきた。「チェルノブイリの祈り」（松本妙子訳、岩波書店）は、大統領の圧力でベラルーシでの出版は中止されている。1996年、「文学における勇気と威厳」をたたえて、スウェーデン・ベンクラブ賞を受賞。2002年からフランス在住。

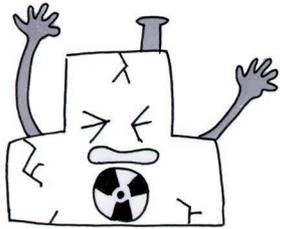
1948年東京生まれ、1974年諏訪中央病院院長に就任。現在、病院管理者。一貫して「住民とともにつくる医療」を提唱してきた。1990年よりJCF理事長としてベラルーシへの医療支援を続けている。2000年ベラルーシ共和国ゴメリ州知事より表彰、2001年フランチェスカ・スコーリンヌイ勲章を受ける。主な著書に「医療がやさしさをとりもどすとき」「インフォームドチョイスー成熟した死の選択」（医歯薬出版）「ホスピス最期の輝きのために」（オフィスエム）「がんばらない」「あきらめない」（集英社）。



鎌田實（JCF理事長）

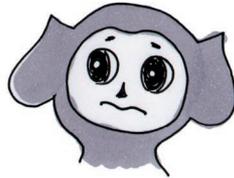
JCF 講座

～ ЧерношкА (チェルノシカ) も考えたよ～



あちこちの原発は
欠陥だらけ、ってことが
よくわかったよね。

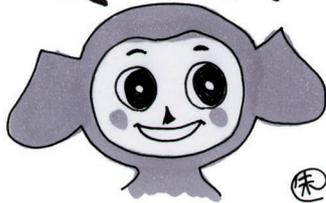
今のまま、原発って
止めておけないのかなア…。
どうしたらいいのかなあ。



ムムム……

そこで!

すごい
3人から



お知恵を
拝借したよ!

中部電力浜岡原発

もしも停電になったら……

原発にたよらない暮らし方をみつけよう

トラブル点検のために停止中の原発を、できれば止めたままこの夏を乗り切れないだろうか。

JCFでは6月、7月、8月と3回連続のJCF講座を開きました。

3回ともそれぞれに特色があり、盛況のうちに終えることができました。

	テーマ	講師	場所
第1回	東海地震と浜岡原発	河本 和朗	松本中央公民館
第2回	自然エネルギー	三輪 浩	JCF松本事務局3F
第3回	我が家のエネルギー、地域のエネルギー	田中 美恵子	JCF松本事務局3F

第一回 東海地震と浜岡原発

第一回目のJCF講座は、長野県大鹿村にある中央構造線博物館の学芸員である、河本和朗さんにお話していただきました。この博物館では、岩石のこと、断層のこと、地震のことなどを扱っています。

日本列島の地殻変動、地震のメカニズム、日本列島で発生する地震の三つのタイプについてのお話。プレートや活断層について、東海地震のメカニズムについてなど、多岐にわたるお話を、ざっくりとわかりやすくお話してくださいました。浜岡原発がいかに危険な所に建っているかということをお話す前に、こういう専門的なことを少し話しておかないと、今までと同じ論調になると河本さんはおっしゃいます。河本さんのお話にはついていくのが必死でしたが、とても勉強になり、新しい発見に溢れていました。

うか大いに疑問が残る所だと感じました。

そして、地震と震災は違うということ。原発を設計する人は一生懸命やるのですが、自然現象の地震というものは予測できないことが必ず起こります。初めてのケースというのが常にあり、と河本さんはおっしゃいます。地震が起こって放射能が降ってくる。しかし密閉された建物も崩壊して、避難できる所もない。こういう「原発震災」が起こるかどうかは、人間のやり方しだいでは決まります。「人間は万能ではない」ということを謙虚に受けとめ、原発震災が起こる可能性がある所に原発を建てるという危険な賭けはすべきではない」。河本さんの言葉には、深くうなずけるものがありました。

それから、私達にはなにができるだろうというお話もされました。放射能

基礎知識を持ちつつ、私達が訴えていきたいと思ったのは、お話の後半部分でした。

まず一つは、東海地震がいかに危険な地震かということ。東海地震は特殊な地震と言えるそうです。普通は海の下で起こるプレート境界地震が、東海地震は陸の下で起こり、マグニチュード8を超える巨大地震だということですから。しかも浜岡周辺にどどんと歪みがたまっているということは、よく知られています。地層も400万年前の海の地層で硬くはないそうです。広い震源域のなかで、とくに強い地震波を生ずる場所の予測はむずかしいが、それが浜岡の下になる可能性は考えられていない。また浜岡のそばに活断層があるけれども、それが一緒に動くことは評価されていないなど、浜岡原発の設計に用いた東海地震による最大の揺れの評価自体、信頼できるものかど

が広がった場合、ヨウ素剤を備えておけば、子供たちに飲ませることで少しは甲状腺癌を減らせるのではないかと。長野県としては、避難してきた人たちを除染できる体制をつくり、長野県民くらのヨウ素剤を用意することはできるのではないかと。河本さんは、田中康夫長野県知事に電子メールを出して提言するなど、実際に動いていらっしゃいます。

講座の後、JCFの三階でお酒を飲みながら話は続き、もつと時間が欲しいと思わせる夜となりました。



河本和朗さん



東海地震の想定震源域

第二回 自然エネルギー

第二回目は、信州大学名誉教授で物理が専門の三輪浩先生を講師としてお迎えしました。先生は、太陽光で発電した電力を使ってOHPを動かしながらお話ししてくださいました。

第一部ではエネルギー問題、エネルギーの様々な区分け・呼び方などについてのお話でした。オイルショックの時は、エネルギー資源（石油）がなくなるということが問題でした。ところが今のエネルギー問題は、資源はまだ少し持つのだけでも、それより前に地球温暖化で環境の方がもたない、ということに問題がシフトしてきました。そして、何十万年単位でサイクルする化石エネルギーや、何十億年単位でサイクルする原子力エネルギーを使うのではなく、1日や1年単位でサイクルするエネルギー（例えば太陽の工

ネルギーなど）を使っていくことが生命のあるべき姿ではないかと話されました。

第二部では、自然エネルギーの具体的な説明をしていただきました。太陽熱温水器・ソーラーシステムに太陽光発電。風力発電に小水力発電。森の木を燃料にする木質バイオマス。家畜の糞尿などで発生するメタンを燃料として使う、バイオガスなどについてのお話でした。

第三部は、エネルギーは様々な形態をとり、形を変えるとき色々な動きが起こるといってお話でした。このお話はかなり難しく、ところどころ私の独自の言葉で書かせていただくと思います。

エネルギーは、自然界ではほとんど物質を低下させていくという「エントロピー増大の法則」があります。これは、熱は高温から低温へ、物質は凝縮状態

から拡散状態へ移って行くという自然界の法則です。人間が生きていくためには、この自然の流れに逆らわなければなりません。その際に、必ず何か外部のもの（エネルギー）を投入する必要があります。そこには必ずロスが生じるそうです。

「エネルギー保存の法則」からわかるように、エネルギーは形を変えても（変換しても）その前と後ではエネルギーの量は同じです。人間にとって都合の良い仕事をさせようと思った時、100%目的のエネルギーに変換することができず、必ずロスが生じます。このロスをうまく使うための仕組みが「コジェネレーション」です。例えば、火力発電所で電力を生む時に発生する熱を廃棄しないで、温水プールの熱源にしたりすることです。このコジェネレーションに着目すべきではないか、と先生はおっしゃいます。

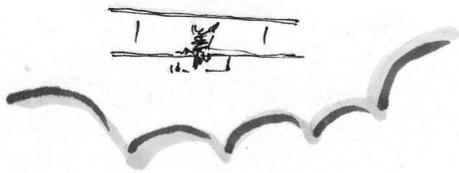
そしてエネルギー利用のTPOも問題です。エントロピー増大の法則より、エネルギーの質は自然に放つておくと低下していきます。低下するのに合わせて、それぞれの段階に合わせて効率よく使っていく必要があるのではないかと思います。私達はミネラルウォーターをいきなりトイレの水として使うでしょうか？同じように、非常に質の高い電気を、いきなり暖房に使ったり、お湯を沸かしたりするのはいかがなものでしょうか。今、「クリーン」で「エコロジー」な「オール電化」を電力会社は謳っていますが、これは先生のおっしゃるエネルギー利用のTPOを全く無視したものだということがわかります。

先生は物理の専門家でいらつしゃる的同时に、実践者でもあります。二部でも話してくださいましたが、太陽熱温水器、太陽光発電をご自宅でも導入



山梨英和高校生徒も参加

されています。冬は凍る心配があるので、温水器を朝あげて、夕方引き上げると、奥様とともに色々工夫されているようです。次の機会は、先生のご自宅での奮闘記を、是非話していただきたいと思いました。



第三回 我が家のエネルギー、地域のエネルギー

この日は清水小学校の学童保育に來ている子供たちにも参加してもらいました。子供たちには「ナージャ希望の村」のスライドを見てもらっている間、大人たちは環境カウンセラーである田中美恵子さんのお話を聞きました。

田中さんは、原発に頼らない暮らしは、それぞれの家庭で省エネに気をつけて実践していくことで全体の電気消費量を減らし、発電量を減らしていくことで実現できるのではないかとお話されました。いきなり難しい話は、忙しい主婦の方々の耳には入らず、わかりやすく実行しやすいことから始めることがポイントだと言います。「冷房は28℃に設定します」「テレビをつけっぱなしにしません」などの10の項目を毎日実践できたかチェックをするカレンダーなどを資料にお話してくだ

さいました。

そして、子供たちとも一緒に、電気製品の待機電力量、実際使っている時の消費電力量を測る機器を使って、扇風機、ラジオ、電気ポットなど、色々な電気製品の電力量をゲーム感覚で測っていきましました。コンセントを抜かずにいると、水道の水を流しっぱなしにしているように、待機電力がとうとうと流れていることが一目でわかります。子供たちも、使っていないなくてもコンセントがつかつてしていると電気を使った、ということが段々わかってきたようです。

最後に、全員で「省エネカルタ」をやりました。身近にできる省エネ実践法がカルタに書かれていて、あいいうえお順になっています。田中さんがカルタを読み始めると、大人も子供もみんな真剣に戦いました。

田中さんはさすがにいろんな人にお話されているだけあって、身近で親し

みやすい語り口で、子供にもわかりやすい省エネのお話をしてくださいました。小さな省エネをみんなが少しずつ積み重ねていけば、原発に頼らない楽しく豊かな生活がやってくるかもしれない、と思った一日でした。

※この講座は専門的なお話が多く、ここではお伝えしきれないことがほとんどでした。また、内容を取り違えている箇所もあるかもしれません。第1回の講座は、テープ起こしたものと資料、第2回、第3回も資料がJCFにありますので、詳しいことをお知りになりたい方はJCFまでお申し込み下さい。第2回の「エントロピー増大の法則」についてもっとお知りになりたい方は、山口幸夫さん著「エントロピーと地球環境」(七つ森書館)がお薦めです。
(事務局・重岡)



子ども達と省エネカルタ



家電の消費電力を測る



県立子ども病院にて

ゴメリ医科大学医師研修来松 松本での一週間

Отзыв
о стажировке в префектуре
Nagano (Matsumoto) 16-22 августа
2003г. Baranouskaya A.I from
Gomel Medical University (Belorus).

В Японии и в Матсумото я
встретила много прекрасных людей,
которые очень хорошие специалисты
и помогали мне. В префектуре
Нагано я увидела перинатальный
центр, который произвел на меня
очень большое впечатление. Государство
вкладывает большие средства для
легеней детей и для обучения

сотрудников и для обучения
специалистов и для совместных
научных исследований.

Особенно большая благодарность
Toran Chetnovy Foundation и лично
госпоже Kamiya Sadako за
организацию моего визита в Нагано.

A. I. Baranouskaya
Барануска
август 2003.
Matsumoto.

детей. В перинатальном
делают сложные операции
и выкачивают этих
Благодаря такой высоко-
качественной работе и большим
человеческим вложениям в Японию
и другие показатели в мире.
Этот университет Shinshu
научными исследованиями
и уровне и я хочу, чтобы
иными университетами было

長野県での研修

ゴメリ医科大学 エレーナ・バラノウスカヤ

日本の松本で、私はたくさんの素晴らしい人々に出会いました。とても素晴らしい
専門家達が私を助けてくれました。長野県で私は周産期センターを見学しましたが、
とても印象に残りました。国が子ども達の治療と専門家達の仕事にたくさんの予算
措置をしています。周産期センターでは複雑な手術が新生児にされ、これらの子ども
達は再生しています。日本の高レベルの習熟された仕事、技術設備、世界で最も
素晴らしい指標です。信州大学の専門家は高水準の研究に携わっていました。私は、
わが大学と専門家研修と共同研究のために協力が行われるよう望んでいます。
殊に日本チェルノブイリ連帯基金と長野県訪問とオーガナイズされた神谷事務局長
に個人的に感謝します。

A.I. バラノウスカヤ
8.2003

エレーナ先生松本日記

ゴメリ医科大学産婦人科主任エレー
ナ・バラノウスカヤさんが、松本にやっ
て来た。

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会が
招聘し、長崎で夏期研修されていた。
JCFは昨年から、ゴメリ州立病院附

属産院の新生児支援を行っており、ゴ
メリ州の産婦人科のリーダーであるエ
レーナ先生に今後の支援協力のために
も、信州大学の視察と交流を、と計画
した。

◆8月16日

空の停留所のような松本空港にエ
レーナさんは、ひとり降り立った。手
には3年前の長崎で講演した神谷の写
真を持っている。でも、停留所の良い
ところ。出迎えた神谷も、すぐにエレー
ナさんを見つける。

この日は、そのまま、蓼科の土井有
子さんの自宅を訪問した。到着するや
いなや、ホームコンサートに集まって
いた方たちから歓迎される。ささやか
なクラシックコンサートにくつろぎな
がら、ワインパーティ、そして、勢い
でみんなで『縄文の湯』温泉に走って
しまった。なれない温泉にとまどわれ
るかな、と思ったが「日本は、初めて
です。何でも面白い」と楽しんでいた。

この日の夕食は、鍋。真夏の鍋料理が
こんなに美味しかったのは、今年だけ
でしょう。大勢の勢いは、夜遅くまで
続いた。

◆8月17日

肌寒い小雨が降り続けている。エ
レーナさんの起床は、11時。日本に
来て初めてこんなにぐっすり眠れまし
た、と満足そう。土井さんの山荘では、
本日に十分な休息をいただきました。
午後から、ベラルーシから信州大学
工学部に研修に来ているサーシャも合
流して、諏訪大社など、近くを散策し
た。日本独特の神社の建物、丁度通り
かかった神主さんに驚かれて、一緒に
写真を撮らせていただいた。

有子さんの心づくしの夕食。海老フ
ライがたいそう気に入ったらしい。こ
の日から「エレーナさん、何が食べた
い？」と聞けば、必ず「海老」という
答えが返ってきた。

◆8月18日

今日から、松本での研修が始まる。昨年からの新生児支援を担当して下さっている松澤先生が、エレーナ先生視察のプログラムを組んで下さった。

信州大学医学部産婦人科で大西先生に産科・婦人科を案内していただいた。難しい医学専門用語・病名などは全部英語で話していただきながら、体外受精や出産時の女性へのさまざまな治療について説明していただいた。細かい数値に質問が入る。エレーナ先生は、臨床治療・学生の教育だけでなく、やはり研究者だ。



ベラルーシの妊婦健診や周産期医療

プリントされていた。

信州大学医学部国際交流委員会委員長の倉科先生を訪問した。倉科先生はJCFの理事でもあるので、ベラルーシの医療事情はよくご存知だ。将来的な協力関係について、学生や研究者の交換、共同研究など概要を話し合われた。

午後は、国立中信松本病院に向かった。この病院には、先天性異常、あるいは仮死状態で生まれるなどして障害を持った方達が、過ごしている病棟がある。80床のベッドには、寝たきりの方、たくさんのチューブを挿入された方などが入院されていた。丁度リズム運動が始まるというので見学した。車椅子にのったまま音楽に合わせて走り、上下に揺れる。彼らの笑顔がふれる。寝たきりにならないこと、音楽と動きがこんなにも大切なのかと思う。

エレーナさんは、すべてこの費用が国で賄われていると聞いて、首をす

についても情報交換しながら、ディスプレイが続き続いた。エレーナさんは、とても満足した様子だ。普段の表情と専門家同士の話し合いの時の表情がガラツと変わる。

◆8月19日

朝、わずかに陽がさした。昨日までの雨にうんざりしていたので、少し元気になる。エレーナさんは、だんだんなれてきた模様。今日は、ゆかたの着付けから、一日が始まった。彼女は、上背があり、スマートなので、着物の着映えがする。

午後、豊科町にある県立子ども病院に行く。日本でも最高レベルの設備を持つた子ども病院だ。エレーナさん、「感想は？」と聞かれて「ファンタスティック！」と答えた。先天性異常の新生児や1000g以下の新生児の治療などを視察する。県内各地から赤ちゃんを搬送するための救急車も万全の設備を整えている。ゴメリの産院と

くめた。ベラルーシでは、出産前に異常が発見されれば、できるだけ中絶する。もし、出産時の異常で後遺症が残っても、受け入れる病院や施設はなく、各家庭に委ねられるという。医療や福祉、両国間の違いは大きすぎる。今、現実にある問題に対しても、この違いをふまえて、相互協力の方法を探っていくことになる。

エレーナさんに、今日で松本での医療視察プログラムは終わりです、という「終わりではなく、これで始まったのよ」と言われてしまった。

◆8月21日

列車で小淵沢に向かった。JCFを応援してくださっている上條悦子さん、友人でモスクワ特派員だった長井康平・妙美さんご夫妻と清里でゆっくりした。昨年までカザフスタンで日本語を教えていらした長井さんご夫妻は、ロシア語が堪能だ。あいにくの曇り空で、晴れていたら南アルプス、富



清里にて、長井さんとエレーナさん



県立子ども病院にて

◆8月20日

信州大学の産婦人科の図書室で、専門雑誌を閲覧した。ベラルーシは、最新の医療情報がなかなか手に入らないと言う。ジャーナルに掲載されている研究論文をメモを取りながら読まれている。医学部附属図書館でもインターネットを熱心に検索し、興味ある所を

士山、八ヶ岳が一望できたはずと山のないベラルーシからの乗客には素晴らしいおもてなしになるはずだったのに、ちよつと残念。しかし、ロシア語で自然、映画、等々帰りの列車時間を忘れ、おしゃべりを楽しんだ。
(事務局長・神谷)

ベラルーシの食卓

グルジアのナス料理 (ジョージアのナス)

グルジア共和国は、コーカサス山地にあり、ヨーグルトと長寿で知られていますね。髪は黒く、文字もアラブ文字に似ていて、旧ソ連邦にあっては、独特の文化の国です。そして、かのスターリンの出身地、スターリンが好んだ赤ワインは美味しいですし、グルジア料理も独特で、ぜひお勧めです。グルジアといえば、有名な画家ピロスマニがいます。「ピロスマニ」というグルジア料理のレストランはモスクワで有名です。

グルジアはとっても魅力的な国です。グルジアの英語読みはジョージア。ジョージアのナスと言えば、思い通りの罵詈雑言を浴びせたい輩がいますが…。

今日は美味しいナス料理に美味しいワインをかたむけつつ、初秋の風を感じて。

<材料>

- ・中位のナス 4個
- ・割ってきれいにしたクルミ 1カップ
- ・塩、コショウ、このみで酢

<作り方>

1. ナスを柔らかくなるまで、にがみの汁が出るまで、フライパンで焼く。
2. みじん切りにしたクルミとニンニクをナスと一緒に、練り状のかたまりになるまで交ぜる。
3. 塩とコショウ、好みで酢を入れる。
4. 白パンかフライポテトを添える。



モスクワ便り



女性と自動車 笑い話

10年前にはロシアの道路を見たら、ほとんどの運転手が男性でした。今は状態が変わって来て、男性と女性の割合は50 / 50に近いです。私の意見では女性の方が注意して自動車を運転しますが、男性はそう思いません。彼らによると、女性と車はありえないコンビネーションです。これについて笑い話はとても人気です。

★

運転する女は遠い天の川の星のようです。あなたは星を見ますが星はあなたを見ません。

★

—あなたは運転する者の中でだれが一番こわいですか。

—兵士です。

—あとは。

—パイカーです。

—あとは。

—酔っ払いです。

—女性は。こわくはありませんか。

—ああ！女はバイクに乗っている酔っ払った兵士と同じようです。

★

交通警察官は女性を止めた。

—なぜ赤信号に通って来ましたか。

—私の口紅は赤いし、ハンド・バッグも赤く、長靴もドレスも車も赤いから、青信号に合わない。

★

若い女の人はずいスピードを出して高速道路を走っている。隣に座っている女友達は、『ちょっとスピードを落としてくれない。目の前に何でもちらちら。』と言っている。

—あなたは私のようにしなさい。

—どうして。

—目をつぶって。

イリーナ・ニコラエバ (JCFモスクワ事務局)

人間はその一切の技術的可能性を十分に発見するためにその道を通りゆく運命にある。然しこの道は真の存在には至るものではなく、ただ人間の像の破壊に役立つのみである。

ニコライ・ベルチアエフ『歴史の意味』より

被爆都市の市長が、公民権運動の指導者マーチン・ルーサー・キングの言葉を引用しつつ大國アメリカの暴挙に警鐘を鳴らした。それに時と場所を同じくして、一國の首相が同じ大國アメリカに対する同盟国としての協力と同調を訴えた。この出来事が、二〇〇三年の夏、日本という国を象徴している。

ニューヨークからカナダにかけて起きた大停電も「文明の黄昏（たそがれ）」を実感させるに十分な事件だった。前後して、原爆を投下したエノラ・ゲイのみが、被爆者の遺品を置いて展示された。これらの出来事は、私達が容易には後戻りを許さない強大な力の下に生活していることを如実に示している。

冒頭に引用したのは一九三六年にロシアの哲学者ベルチアエフが残した預言である。核による大量殺戮の以前、すでに人類の歩み行く方向がこうして峻厳に捉えられていたのだ。わけても後半部の、哲人の絶望的観測は、昨今テレビや新聞の報道をにぎわす人格崩壊の事件となって顕れつつありはしないか。



写真提供 本橋成一



写真提供 本橋成一

そもそもここで「人間の像」という言葉の内に込められた価値が、現在果たしてどこまで共通に理解され得るか、が問われている。いったいどこで、誰が、尊重され伝承されるべき美しい「像」としての人間存在を示しているだろうか？ 『自分も、あの人のように生きたい』と願う時、私を引き付けて止まないのは、その人物が「外に持っているもの」であるよりも、むしろ、彼または彼女がその「内に持っているもの」である。一人の人間を内側から創り上げていく価値を手から手へ、口から口へと受け渡して行く営みを「文化」という。

けれどもあらゆる「文化」は運命的に「文明」へと移行する。それは端的に「新しき『生』への意志、如何なる犠牲を払っても力と支配とに至らんとする意志」（ベルチアエフ）に導かれる奔流である。携帯電話、インターネット、デジタル放送……。私たちは、自らの果て無き欲望を技術的に充足させながらも、同時に伝来の価値を内面的に継承する道を忘れてはなるまい。「文明の黄昏」に生きる人間には、アクセル（文明）とブレーキ（文化）のバランス（均衡）を保つための智慧の働きが、今や死活にかかわる課題として求められている。

あらためて、二人の為政者による発言をどう受け止めるべきだろうか。歴史の内に源を発し、やがて永遠へと流れ入る水脈として「文化」を捉えた時、彼らもまた大河の一滴であり、一個人として、その内面を問われているのだ。

「文化とは新たなる生又は存在の状態の実現ではなく、新たなる価値の実現である。」（宮崎信彦訳）

ジーマの

ロシア小話

◆ロシアの釣りアマチュア達は、魚釣りをオリンピック・スポーツとして認め
てもらおうように戦うことにしました。釣り大会を主催し、IOCのエキスパート
達を招きました。

そのあとは、

—どうですか、エキスパート達を、釣りがオリンピック・スポーツになれる
と十分説得したのか？

と聞かれると、

—殆ど説得しました。一つだけ、つまりウオッカがドーピングじゃないと、
証明することが残っています。

との答えでした。



◆ある男は、「あなたは外へ出ると、マンモスに遭う可
能性はどれぐらいあるのか」と聞かれた。「10億分の1」
と。

ある女は同じ質問に「2分の1」と答えた。

なぜか、「遭う」か「遭わない」か、どちらかになるからだ。

◆医科大学の試験では、ある男性教授は学生に妊娠の兆
候を尋ねる。

「じゃー、お腹が大きい、足が細い」

「僕を見て下さい。お腹も大きいし、足も細いし。僕が
子供を産まない限り、あなたはこの試験を合格しない」

—ストレリツォフ・ドミートリさんよりのアネクドート—



АНЕКДОТ



◆Решили русские любители рыбалки бороться за то, чтобы
рыбную ловлю признали олимпийским видом спорта. Устроил
и соревнования, пригласили экспертов из
Международного олимпийского комитета.

- Ну что, - спрашивают их, - убедили экспертов в том, что
рыбалка может быть олимпийским видом спорта?

- Почти, - говорят рыболовы. - Осталось только доказать,
что водка - недопинг.

◆У мужчины спрашивают:

- Какова вероятность того, что, выйдя на улицу,
вы встретите мамонта?

Мужчина:

- Одна миллиардная.

Женщина на тот же вопрос ответила:

- Одна вторая.

- Как так? - спрашивают.

- Ну, - говорит, - или встречу, или не встречу.

◆ На экзамене в медицинском институте профессор
спрашивает студента признаки беременности.

- Большой живот, узкие ноги.

- Посмотрите на меня. У меня большой живот, узкие ноги.

Пока не рожу, вы экзамена не сдадите.

振替用紙のメッセージから



◎この位しか出来る事がなくて…。

(長野県)

◎6月6、7日、松本Mウイングの「ナージャの村」「アレクセイと泉」上映会、とてもよかったです。再び観てみたい。日本の支援活動、息の長いものにしたい。

(長野県)

◎被災地の子供達に平穏な日が訪れますように。

(長野県)

◎配送料にお使い下さい。

(埼玉県)

◎わずかですがポーンナスが出たのでお送りします。子どもたちのために役立てて下されば幸いです。

(宮城県)

◎どうか希望がかないますよう祈ります。かなえて下さいね。

(長野県)

◎新しい命が大切にされる場所をもっと増やしたいです。

(石川県)

◎子どもの描くクリスマスカードがともうれしい。

(東京都)

◎年2回ほどの、しかも少額のカンパですが、今年も夏がやってきました、ささやかですが使ってください。世界の

中の幸福な国ジャパン、ヨーロッパからジャップとさげすまれている日本です

が、世界の中の日本という、まさに

幸福の国の正しい評価が、真実の姿が見えてくるように…私は祈ります。カンパに名目なしです。どの項目とかややこしいことは抜きです、いつわらぬ良心のために祈ります。

(広島県)

◎最近特にTVなどで戦争に巻き込まれた子どもや病气などに苦しむ人々の映像を目にします。日本では助かる病

気やケガが、医師やワクチンがないために命を落としたりしていく姿が、ホントに胸が痛んで辛いです。今の自分

はホントに恵まれていて、もっとこのような世界の状況を真摯に受け止めて、無力ながらも何か力になって行ける

ようになれたら…と思っています。わずかな金額ですが、ぜひとも苦しんで

いる人々のために使ってください。このHPを知人や友達にできるだけ

くさん呼びかけて、もっと募金しても

らせるように頑張ります。

(京都府)

◎次世代に負の遺産を残さないよう、ガンバリたいです。

(長野県)

◎少しのお金ですが、これが多くの人たちの想いとつながって子供たちの笑顔が生まれますようにのっています。

(長野県)

◎いつも少額で申し訳ありません。

(大阪府)

◎ごぶさたいたしました。わずかですがお役に立ててください。

(長野県)

◎たくさんの人の熱い思いが、祈りがマリアちゃんのもとに届きます。マリアちゃん的笑容をみたいから…。

(沖縄県)

◎いつもお世話さまです！グランドゼ口の中から事務局の皆様の大変なご苦労が伝わってきます。「あきらめないぞ！」と静かに自分の心に言いました。

(沖縄県)

◎わずかですがお役立て下さい。

(京都府)

◎今は具体的になにもできていません

が、チエルノブイリとはずつとつなが

がっていたと思います。

(兵庫県)

◎「アレクセイと泉」の上映会で多くの方に来ていただきました。そして皆さんが感動し、チエルノブイリのことを

考え、そして自分たちの今を考える時となりました。感謝をこめて。

(埼玉県)

◎暗いニュース、怖い事件ばかりが続いていきます。こんな時だからこそ人と

人が想い合う心を持ちたいですね。

(長野県)

◎少しですが子どもたちのために使ってください。

(神奈川県)

◎少しばかりですが、送らせていただきます。一人でも多くの子供さんがお

元気になることを願っております。

(千葉県)

◎尊くも有り難き生命に感謝をこめて

(岐阜県)

マリアちゃんに、たくさんの応援を ありがとうございます！



移植日 10月2日

2日に前後してどのような治療をするか、プログラムができ、日本から持っていく支援薬品、現地で調達できるものなどについて話し合われた。移植に際して、免疫不全が起こらないよう万全を期す。信州大学小児科でさい帯血移植の経験豊富な中澤洋三医師が移植前後をサポートすることになった。
第71次訪問団は9月29日出発、10月7日帰国予定で準備が進んでいる。

9月12日現在、マリア基金には1,428,366円の寄付を戴きました。マリアちゃんの臍帯血移植に必要な薬品代などの総計4百万円まで、暖かな応援をお願いします！

信大小児科医師サポート渡航
TVモニターにミンスクの国立科学小児血液がんセンターのオリガ先生とユーリー先生が写っている。信州大学医学部医療情報部では、小池先生、中澤先生が並んで、マリアちゃんの移植プロトコルについて話し合っている。今年度チエルノブイリ10ドリームズで皆さんからの支援協力をいただいているマリア・クリシタポビッチさん(5才)のさい帯血移植の日程が決まった。10月2日である。

可愛い贈り物
JCFの児童健康診断を担ってくださっている昭和大学医学部の衣川直子先生のつながりで、千葉県在住の天野美智子さんから手作りのパジャマが届いた。天野さんは子供さんの経験から、治療中にキャップがあつたら、とパジャマと同じ布でキャップも2枚つけて下さった。日本では、キャラクターのマスク、バンダナ、治療中の子ども達は可愛く使っています。ペラルーシでは見たことがありません。
天野さんからの暖かい贈り物、ピンクのパジャマとキャップも持って、29日出発します。(事務局・神谷)

◎遅くなってしまい、すみません。よろしくお願い致します。(長野県)
◎マリアちゃんの手書きな笑顔のため思わずかですが、ピースウォーク何度も歩きの中で、劣化ウラン弾の怖さを知りました。平和な世の中を待ち望んでいます。(京都府)
◎支え支えられる関係。自分の方こそ支えられていることに感謝です。私たちの希望である子ども達に心が届きますように祈ります。(石川県)
◎一応賛助会費として送りますができれば新生児支援に充ててくれると嬉しいです。赤ちゃんがんばれ！(東京都) 新生児支援に入金させていただきました。(事務局)

◎健康で平和に暮らせる現在に感謝しつつ、心ばかりの送金です。(石川県)
◎どのコースでも構いません、必要な所に使ってください。(京都府)
◎暑中お見舞い申し上げます。グラندوقゼロをいつも送って下さってありがとうございます。(石川県)
◎わづかですがお役立て下さい。(東京都)
◎なかなか実績が上がらずごめんなさい。未永くお考え下さい。(埼玉県)
◎わづかですがお役立て下さい。(東京都)
◎マリアちゃんが一日も早く元気になれますようにお祈りしています。(愛知県)
◎情報をありがとう！カタログハウスで活動を知り、そこから寄せていただいていたが今回この用紙を頂く機会がありましたので。少額ですが、応援します。(長野県)
◎少しですが、役立てて下さい。(岐阜県)
◎《私たちのアピール》私たちはチエルノブイリ原発事故の被害にあい、今も苦しみ続けている人たちを少しでも助けてあげたいと思っています。特に小さい子供達など幼い命を救ってあげ



れたらうれしいです。
(東大阪市立小阪中学校2年生一同)
◎皆さん元気でがんばって下さい。(群馬県)
◎用途はおまかせです。(長野県)
◎適合者が早く見つかるように祈っております。(京都府)



「ふっくらゆっくりにゃん物語」ラ・テール出版局（右カットも同書より）



フストレーチャ：出会い ВСТРЕЧА



ふっくらゆっくりにゃん夢を拓げて！

グラランドゼロでも度々紹介した「ナー ज्याの風」のみなさんの労作、「ナー ज्या希望の村」というCD付きのスライドがあります。京都の鈴木さんや「ナー ज्याの風」のみなさん、長野の加藤由美子さん、多賀さゆみさんなどが各地でスライド上映会を開いていますが、このスライド会を一年間で50回も開いた方がいるのです。

「アレクセイと泉」上映会を一人で開催して、千二百人を越す観客を集め、上映会の余剰金10万円をマリア基金に寄付して下さった埼玉県所沢市の森田きよこさんです。一年間で50回というほとんど毎週一回はスライド会を開いていた計算です。それだけの会を開くのもすごいのですが、どうやったらそんなに人を集めることができるのでしょうか？

映画館「ポレポレ東中野」のオーピング内覧会に、森田さんがいらっしやるというので、私も出かけていっ

て、お話を聞くことにしました。

ポレポレ東中野の事務所に現れた森田さんは華奢な身体から、パワーと笑顔がはじける方でした。スライド上映会の有能な助手のお嫁さん、順子さんもおいっしょです。嫁・姑さんというより、意気の合った先輩後輩二人組という感じです。

ご挨拶の後、森田さんから「はい、これお土産です」と包みを渡されました。中から出てきたのは「ふっくらゆっくりにゃん物語」という森田さんが書かれた本でした。

なんと森田さんはパンを作り始めて30年、パン作りを仕事にして20年、多い時には100人の方に週一回パンを作ってご自分で配達して手渡してきたそうです。

なぜか私が『会員さん訪問』に出かけるとパン屋さんに出会います。これは会員さん訪問第一回目を金沢の「森のパン屋さん」からはじめさせていた

だいたご縁でしょうか。ほんとに不思議！

森田さんの「アレクセイと泉」上映会や、「ナー ज्या希望の村」スライド上映会のお話をするには、パン屋さんの物語を抜きにしては語れません。

最初はお子さんの喜ぶ顔と、パン種の感触の魅力の虜になって始めた森田さんのパン作りは、次第に趣味の域を脱して、和菓子屋さんで使っていた業務用天火を入手したのを機に、本格的なパン屋さんが始まります。この優秀な天火の出現は逆にできあがるパンの量を決め、増えたパンの量だけ、友人の輪も広がっていくことになりました。

朝3時から粉30キロ分のパン作り、作業するのは森田さん一人、20年間お隣の奥さんが袋詰めに徹してお手伝いしてくれました。この方はパンを作る部分には最後まで全く手を出さず、できあがったパンはきっちり定価で買って帰るといふ、なかなかできない賢い

関わり方を続けてくれたのです。森田さんの周りには個性的で一本筋の通ったお友達が集まっているようです。

パン屋を始める時、「私が呼びかけてパン買う人を広げてあげる、でも配るのはあなたがしてね。」と友人の一人から言われたそうです。この言葉を守ったことで、森田さんとお客様の間に強い絆が育っていきました。

ですからパンが焼き上がると一日がかりで配達。道路が渋滞して遅くなったりしてしまったり、「毎週木曜日はパン向きの献立にしているけれど、今日は献立変えないといけないかなと思つたところよ」と言われたり、老夫婦が心配して森田さんを門の前で待っていてくれたり……。悲しいこともあったそうです。パンを届けにいったら、いつも森田さんのバターロールを毎食一つずつ食べるのを楽しみにしていた90才のおばあちゃんのお宅は、告別式の最中、先週はお元気だったおばあちゃんが急

に亡くなったのです。またこんなこともあったそうです。離乳食から森田さんのパンを食べて育ったある娘さんから、パン作りを勉強する学校に行こうかと思ってるんだけど、と打ち明けられ、この娘さんは専門学校を出て現在パン屋さんで修行中だとか。

パンはどこにでも売っているのに、森田さんのパンをこうして待っていて下さる方との、食べ物を通じた信頼関係の暖かな確かさが森田さんを支え、20年間、風邪もひかずに、一人でパンを作り続け、どんな雪の日でも自分



上映会のアルバムを見ながら

でパンを届け、渋滞を避けるために所沢の抜け道も熟知するようになりました。ところが森田さんは60才を目前にしてまだ余力があるうちにパン屋さんを閉じて、何か違うことにチャレンジしたいと考えるようになったのです。そして一昨年、一年かかってお客様に予告お願いして、パン屋さんをやめました。ちょうどそんな時に、映画好きのお友達に誘われて見たのが「アレクセイと泉」だったので。

その時は自分が上映会をしようなんて思わなかったのですが、映画を見た時に偶然会った旧友の息子さんが、サナフィルムズのスタッフだったという巡り合わせや出会いの勢いで、いつのまにか上映会を開こう！とまで盛り上がったってしまったのだそうです。

「ナージャ希望の村」の 슬라이ドと出会ったのは、昨年夏の中野ゼロホールでの上映会での紹介だったの。その

時は、坂本龍一さんも来ていて、盛りだくさんのプログラムだったので、ああ、こんなスライドがあるんだ、と思っただけでした。

上映会を開くことになり、昨年の8月に上映会会場に申し込みに行ったら、土曜日はもう次の年の7月12日しか空いていなかったの。それで結果的に一年がかりで上映会を準備することになったのね。

会場を申し込んだりするのは個人名ではダメなので、パン屋さんをしてた時の繋がりの友人が、この指とまれで応援はしてくれたのですが、実は実行委員会というようなのは一度も開いてないのよ。当日のことや準備で何かお願いする時は私が個人的にお願いのお手紙書きました。会場と日程が決まったので、教育委員会の後援があると動きやすいと聞いて、お役所に申請に行きました。そしたら何か実績を示す書類を出せと言われて、20年間パン屋を

やったという「実績」ではダメなんですって。(笑)そこで、一年かかってスライド上映をして、実績作りながら、同時に「アレクセイと泉」の上映会も広めていこうと思いつきました。

第1回を私の所属する教会でやった後、個人のお宅を借りて上映してたのですが、ある時、公民館でスライド会をやったことがあって、その時初めて、公民館って来る方も来易いし、設備も揃っていると気付きました。毎日新聞がスライド会を取り上げて、「ナージャの風を吹かせよう」という記事になったせいもあって、私の知らない方も大勢参加して、丁寧な感想をいっぱい書いてくれました。スライドを見終わったら後は必ず一時間くらい時間をとって感想を聞きます。ある時たまたまお茶を用意していったら、お話が弾み、それからは毎回お茶と何か小さなクッキーとかを持参しました。

こうして森田さんは順子さんといっしょに、上映会に工夫を重ね、所沢の公民館をほとんど網羅していきます。

子どもも随分来てくれました。動きのないスライドを今の子どもがちゃんと見てくれるか心配する方もいました。が、スライドを始める前に、「普段はテレビとか動いているものを見てると思うけど、これは一瞬一瞬止まるからよく見てね、そしてそのなかから心に残ったことをおばさんが聞かからね」と言うといっぱい感想言ってくれた人たちは今まで一番静かだったよ」と言う「わー」ってね。

小学校の低学年だって難しいことはわからなくても、どこかの場面が心に残っていて、お母さんと話をするきっかけになったり、大きくなった時にもきつと心のどこかに残ると思うの。私もスライドを上映していて、いつも毎



子どもたちにスライドを見せる森田さん

回新しい発見があって、ナレーションは覚えてしまったけど、一つ一つの言葉の持つものが毎回変わるのよ。スライドの輪から出発したので、「アレクセイ」の上映会も小さい子どもがけっこう来て、最後までちゃんとしてくれたんです。こういうのっていい

しよに来るお母さんの気持ち次第だと思ふんです。お母さんに「これを是非見せたい！」という強い気持ちがあれば、きっと子どもには通じると思う。

いつもプロジェクターと白いシーツを持ち歩いて会をしています。失敗もあったよ、スライドのフィルムが引かかって動かなくなってしまう、と冷や汗かいて…。

印象に残っているのは、あるマンションに住んでいる方から本の読み聞かせとマジックとスライド上映をやりたいというお話があったのですが『予定日が近づいても、だれからも申し込みが無いから取りやめにします』と連絡があったのね。でもその方のお孫さんは会を楽しみにしているというので、『一人でも来てくれればいいじゃないですか、そこから広がっていけばいいのだから、やりましょう、やりましょう』って。そしてそのマンションに住む友

人の娘さんからお誘いのお手紙も書いてもらったりして、結果的には当日子どもが30人くらい、大人もけっこう集まったの。その会の後、中止すると言った主催者の方は、これからもこういうイベントを続けて、本を読むという得意な分野を通じて子どももつながって行きたい、と言ってくくださったのよ。

森田さんのスライド上映会は所沢にいろんな風を吹かせたようです。

上映会がせまった6月の末に、秩父高校の生徒と卒業生の集まりに招かれてスライド会をしました。その時、この放送部の生徒がスライドの後で『もし私の住む大好きな秩父の村が汚染されて出て行けと言われても、私は出ていかない』という即興の詩を発表してくれました。それが素晴らしく、それを聞いた時に、上映会の最後はこの詩の朗読にしよう、というプログラムがひらめいて、その場でお願いしま

した。そういう即決も上映実行委員会とか作らないで、一人だけでやった強みですね。パン屋も一人でしたし、私は一人でやるのが好きみたい。

一回のスライドに集まって下さる人数って、ちょうど顔の見える数です。そういう方がみんな映画に来て下さったのね、でも最初からそれを狙ってスライド会をやったわけでは無かったのよ、巡り合わせでしょうかしらね。

森田さんのパン作りは中種法といって、前の夜に粉、水、イーストだけをこね、5、6時間置いて、ゆっくり醗酵、熟成させます。翌朝、その生地を粉、塩、砂糖、水、イーストなどを加えてもう一度こねなおします。こうすると、パンにポリウムがあり、とてもやわらかいのに、弾力があるスポンジのようなふくらとしたパンが出来上がるそうです。

森田さんは、映画上映会をするため

にパン屋さんをやめたわけではなかったのですが、お話を聞いてみると、何だか大いなる手に導かれて、ゆつくりと上映会実行へと誘われていったような気がします。

森田式上映会のレシピは、20年間のパン屋さんで作り上げたスケールの大

きい暖かな人の輪を原料にして、スライド上映会という前段階醗酵を50回も重ね、ゆつくりふくら幾つもの夢を育んで膨らませ、一年かかりで7月12日の上映会というすばらしく美味しい大きなパンに焼き上げました。

そして上映会が終わった後もスライド会は続いているのです。映画を目指して始まったスライドですが、これからもスライド上映はずっと続けていきたいと森田さんは淡々とおっしゃいます。森田さんは今度はどんなチャレンジをして、どんな夢を膨らませるのでしょうか？

この日はサスナフィルムのスタッフの皆さんも忙しく、いつもは手作りの美味しい昼食をご馳走になるのに、「そろそろお昼ですが、下のレストランに行きませんか」と声をかけられました。「スタッフのみなさんはどうするの？」



長蛇の列ができた上映会当日

と森田さん。

「私達はお弁当を買ってきてここでガーツと食べます」

「じゃ、私もお弁当をここでガーツと食べます」

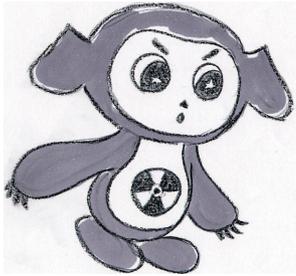
間髪を入れずに答える森田さん。

明るくてパワフルで、ユーモアいっぱい森田さんのお話はいくら聞いても聞き飽きません。でもそろそろパーティーが始まります。お名残惜しくお話にピリオドを打っていただきました。

松本への帰りのバスのなかで森田さんに頂いた本を読んでいたら、私もふんわり暖かいパン生地をこねてみたくなりました。森田さん、順子さん、お話ありがとうございます。また新しい夢の「パン」作りのお話をいつか聞かせてください！（事務局・布山）

こんにちは！

Здравствуйте!



山梨英和高校インターアクト委員会 学園祭での取り組み

学園祭を終えて…

今回学園祭で調べた原子力発電から、たくさんのことを学ぶことができました。1986年、私が生まれた直後にチェルノブイリで大きな事故が起きた…。事前学習で松本へ行ったときにその事故の事を詳しく知り、なんと恐ろしい事かと思ったのを良く覚えています。この訪問をきっかけに始まった私たちの学園祭準備でしたが、簡単には進行しませんでした。奥深い原子力発電は、調べれば調べただけ新しい情報が見つかったのです。

その中でも私は世界における原子力発電所を担当したのですが、その多さに驚かすにはいられませんでした。調べていくうちに、日本はアメリカの基数の2分の1であると知り、少々安心感を得たのもつかの間、日本は基数こそアメリカよりは少ないものの、原子力発電の占める割合がアメリカより高いということを知り、ショックを受けました。日本という国がどれだけ原子力に頼っているかを思い知らされた瞬間でした。

地震の多い日本にたくさんの原子力発電所。私たちが今発電のあり方を変えることは不可能に近いかもしれませんが、でも、使用する電力量を減らす努力をすれば、そんなに原子力での発電をしなくてすむかもしれません。

この学園祭では、多くの人に関心を持って見て頂いて、一緒に考える事もできました。私たちの考えをもっと多くの人に知ってもらいたいです。地球に住む一人一人に関わりのある問題として、これからさらに考えていくべき事だと思います。

吉川 智佳子



7月12日のJCF講座に参加して下さった山梨英和高校のみなさんは、学園祭でもチェルノブイリや原発について取り組み、文化祭に訪れた大勢の方に、展示を見ていただいております。その一部をご紹介します。



ニュースクリップ

<国内>

●原研試験炉、水漏れで手動停止

日本原子力研究所大洗研究所の材料試験炉 JMT-R の照射試験設備から水漏れがあり、同研究所は原子炉を手動停止した。(6月20日 共同通信)

●保安院が原燃に厳重注意

青森県六ヶ所村の使用済み核燃料再処理工場の漏水問題で、経済産業省原子力安全・保安院は、国の検査後に実施した補修工事を報告しなかったとして、日本原燃に対し文書で「厳重注意」した。(6月24日 共同通信)

●むつ市長、中間貯蔵施設受け入れ表明

東京電力が青森県むつ市に計画している使用済み核燃料の中間貯蔵施設について、杉山・むつ市長は「地域の活性化に寄与する」として、誘致を正式表明した。(6月26日 時事通信)

●「極めて危険」と浜岡原発を警告

茂木清夫・前地震防災対策強化地域判定会会長は、札幌市で開かれている国際測地学・地球物理学連合総会(IUGG)で講演し、中部電力浜岡原発について「直下でマグニチュード8の地震が起きる浜岡原発は、極めて危険な状況だ」と警告した。(7月1日 朝日新聞)

●「常陽」新型炉心が初臨界

核燃料サイクル開発機構大洗工学センターの高速実験炉「常陽」の改造された新型炉心が初臨界に達した。(7月2日 時事通信)

●浜岡原発運転差し止め求め提訴

中部電力浜岡原発の運転停止を求める市民グループ「浜岡原発とめよう裁判の会」が、同原発の老朽化と東海地震の危険性を理由に、運転差し止めを求める訴訟を静岡地裁に起こした。(7月3日 時事通信)

●「ふげん」廃棄物建屋で爆発

福井県敦賀市にある核燃料サイクル開発機構の新型転換炉原型炉「ふげん」(3月末運転終了、定期検査中)の廃棄物処理建屋内の焼却炉で爆発音があり火災報知機が鳴った。焼却炉の異常燃焼が

原因と見られる。(7月4日 共同通信)

●「原発震災」の危険性指摘

神戸大学の石橋克彦教授(地震学)は、札幌市で開かれている国際測地学・地球物理学連合総会(IUGG)で講演し「マグニチュード8クラスの東海地震が直撃する浜岡原発の危険性は高い。人類がまだ遭遇したことのない地震と核の複合災害『原発震災』が起きる可能性がある」と、中部電力浜岡原発の危険性について指摘した。(7月7日 毎日新聞)

●「常陽」が自動停止

核燃料サイクル開発機構大洗工学センターの高速実験炉「常陽」が自動停止した。運転員の制御棒の誤操作が原因とみられる。(7月8日 共同通信)

●浜岡1号機でもシュラウドにひび

中部電力は、定期検査中の浜岡原発1号機で、シュラウドのサポートリング下部溶接部の全周で、断続的に130カ所のひび割れを発見したと発表した。同様のひび割れは同原発3号機で324カ所、4号機で134カ所見つかった。(7月10日 共同通信)

●浜岡原発「東海地震発生時は危険」

来日中の米国人地質学者ローレン・モレ氏が、中部電力浜岡原発を視察し「マグニチュード8クラスの地震がいつ来るかわからないのに、予想震源域の中に原発があるのは異常事態。周辺の岩盤は柔らかく、断層のずれが原発に与える影響は予想よりも大きい」と述べ、東海地震発生時に高いレベルの原発事故が起こる可能性を指摘した。(7月10日 時事通信)

●震災時の浜岡原発「最悪は放射能放出」

神戸大学の石橋克彦教授が、静岡県掛川市内で、東海地震が発生した場合の浜岡原発の危険性について講演し「地震学的に見てもどんな揺れに襲われるかわからない。最悪の場合は、放射能が放出される危険がある」と述べ、「絶対安全」と繰り返す中部電力の見解を批判した。(7月16日 毎日新聞)

●広島でイラク調査団報告会

イラク戦争で使用された劣化ウラン弾の被害実態を現地で調べた「劣化ウラン弾禁止(NODU)ヒロシマ・プロジェクト」の調査団の報告会が、広島市の原爆資料館東館であった。同プロジェクト世話人の森滝春子さんは「ヒロシマが、イラクでの劣化ウラン弾調査のきっかけをつくらなくてはならない」と訴えた。(7月18日 中国新聞)

●高レベル放射性廃棄物輸送船が入港

使用済み核燃料の再処理後に残る高レベル放射性廃棄物のガラス固化体144本(輸送容器6基)を積んだ「パシフィック・スワン号」が、フランスから青森県六ヶ所村のむつ小川原港に着いた。日本原燃の貯蔵管理センターに運び込まれる。搬入は8回目。(7月23日 毎日新聞)

●浜岡4号機、ひび割れ運転開始

中部電力は、停止中の浜岡原発4号機の原子炉を、シュラウドのひび割れを残したまま約11カ月ぶ

りに起動し、調整運転を始めた。(8月4日 毎日新聞)

●湾岸戦争でがん発症10倍に

湾岸戦争やイラク戦争で使用された劣化ウラン弾の後遺症などを訴えるため来日中のイラク人医師、ジャワド・アル・アリさんが、広島市内で開かれた平和集会で講演し「超大国は2つの罪を犯した。1つは原爆の投下、もう1つはイラクで使われた劣化ウラン弾だ」と米国を批判。湾岸戦争で使用された劣化ウラン弾の影響で「がんの発症率が10倍になった」と指摘し「劣化ウラン弾に反対の声を」と呼び掛けた。(8月5日 共同通信)

●東電、告発受けトラブル公表

東京電力は、福島第一、同第二、柏崎刈羽の3原発で、配管内の水素燃焼が原因となった可能性がある計測装置の損傷などのトラブルが、1993年からの5年間に計8件あったことを明らかにした。告発を受け公表した。(8月21日 共同通信)

<海外>

●湾岸戦争のウラン弾なお危険

国際原子力機関(IAEA)は、1991年の湾岸戦争時にクウェートで使用された劣化ウラン弾の残がいから現在も微量ながら放射線が検知されており、人体に危険な場合もあるとの調査結果を発表した。(6月13日 共同通信)

●イランに査察受け入れ求める

イランの核開発問題を討議するIAEA理事会で、抜き打ちの核査察を認める追加議定書への「早期、無条件」の署名をイランに求める議長総括を採択した。(6月19日 毎日新聞)

●劣化ウラン弾、米政府に使用停止要求

米国の民間シンクタンク「核政策研究所」は、劣化ウラン弾が人体に及ぼす影響を検証した報告書「劣化ウラン弾—危険評価の科学的論拠」を公表した。「イオン化したウラン酸化物による突然変異の誘発など、住民や兵士、とりわけ子供にとって有害なことが確認された」と結論づけ、米政府に対して速やかな使用停止を求めている。(7月8日 毎日新聞)

●老朽化進むチェルノブイリ原発「石棺」

チェルノブイリ原発事故から17年以上たち、事故炉を遮蔽している「石棺」と呼ばれる巨大建造物の老朽化が進んでいる。崩落の恐れも指摘され、ウクライナ政府は日本などの支援を得て、来年にも新たな石棺の建造着手を表明しているが、いまだ具体的計画もなく、実現を危ぶむ声も強い。(7月30日 共同通信)

●熱波の影響、仏原発の発電量削減へ

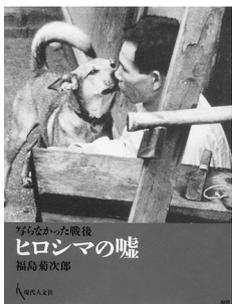
欧州を襲っている熱波による河川水の温度上昇の影響で、フランス電力公社(EDF)は、一部の原子力発電所の発電量削減を決めた。(8月5日 共同通信)

●北米大停電、原発9基が自動停止

米原子力規制委員会(NRC)は、米国北東部とカナダで発生した大停電の影響で、計9基の原子炉が自動停止したと発表した。停止したのは、ニューヨーク、オハイオ、ミシガン、ニュージャージー各州の原発。NRCの当局者は、放射能漏れなどの異常は発生していないとしている。(8月14日 共同通信)

ヒロシマの嘘

福島菊次郎



写らなかつた戦後 ヒロシマの嘘
著者：福島菊次郎
発行：現代人文社
定価：1900 円＋税

Book

著者は、広島が原爆で被爆した翌年から広島に通い続け、40年間被爆者を撮影してきた。そこで見たのは塙が舞う平和公園の風景とおおよそ無縁な被爆者の無限地獄と「平和都市ヒロシマの虚構」だけだった。著者が撮りたくても撮れなかったもの、撮っても発表できなかった広島活字によるドキュメント。

ビキニ事件の真実

大石又七



ビキニ事件の真実
著者：大石又七
発行：みすず書房
定価：2600 円＋税

Book

1954年3月1日、太平洋ビキニ環礁近くでマグロ漁をしていた第五福竜丸は、アメリカの水爆実験に遭遇し、広島原爆の1000倍の威力をもつ水素爆弾「ブラボー」の死の灰を浴び被爆した。第五福竜丸の乗組員だった著者が綴るビキニ事件の真実。あれから50年、ビキニ事件はまだ終わっていない。

闇に消される原発被曝者

樋口健二



闇に消される原発被曝者
著者：樋口健二
発行：お茶の水書房
定価：2400 円＋税

Book

フォトジャーナリストである著者は、永年原発労働者の被曝の実態取材し続けている。原発被曝者とその家族、原発関係者などへの丹念な取材により、原発内での劣悪な労働環境や、原発労働者の置かれている悲惨な状況が描き出されている。著者は2001年度「核のない未来賞」教育部門賞を受賞している。

核超大国を歩く

田城 明



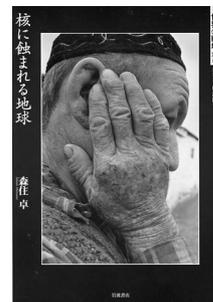
現地ルポ 核超大国を歩く
著者：田城 明
発行：岩波書店
定価：2600 円＋税

Book

核超大国であるアメリカとロシア(旧ソ連)は、放射能汚染や放射性廃棄物など、核時代の「負の遺産」の重荷を最も多く背負っている。両国のウラン鉱山、核兵器工場、核実験場、原発、放射性廃棄物処分地などを丹念に訪ね歩き、放射能汚染の実態を明らかにした現地ルポ。著者は中国新聞社特別編集委員。

核に蝕まれる地球

森住 卓



核に蝕まれる地球
著者：森住 卓
発行：岩波書店
定価：1700 円＋税

Book

世界の核被害者取材している著者によるフォート・ドキュメンタリー。旧ソ連(カザフスタン)セミパラチンスク核実験場の村、ビキニ水爆実験のマーシャル諸島、アメリカ・核施設の風下地区、インド・ウラン鉱山の村、そしてイラクの劣化ウラン弾による被害が取り上げられている。

劣化ウラン弾禁止を求めるヒロシマ・アピール

NO DU ヒロシマプロジェクト



劣化ウラン弾禁止を求めるヒロシマ・アピール
編集・発行：NO DU (劣化ウラン弾禁止) ヒロシマ・プロジェクト
頒価：700 円
問い合わせ：FAX 082-922-2595
<http://www.nodu-hiroshima.org/>

Book

広島市民団体がまとめた劣化ウラン弾禁止を訴える冊子。湾岸戦争、イラク戦争で劣化ウラン弾の被害を受けたイラクでの現地調査の報告のほか、イラク戦争の検証、劣化ウラン弾禁止や核兵器廃絶のアピールを紹介。また、「9・11」からイラク戦争までのヒロシマでの取り組みも掲載している。



第 57 号

発行日 2003年9月26日

発行人 鎌田實

発行所
日本チェルノブイリ連帯基金

イラスト題字 貝原浩
イラスト 武内裕子

表紙デザイン 酒井隆志

スタッフ 神谷さだ子
布山みな子
重岡朱

高橋俊光
佐内裕之

印刷 電算印刷
松本市筑摩 1-11-30

■編集後記

事務局でイベントがあると、神谷さんがボルシチを作る。そんな時は昼間から、すね肉を香草といっしょに煮る何とも言えない、暖かどっしりとした、美味しそうな香りでいっぱいになり、仕事中の私達も来客も、ふんわりと満ち足りた穏やかな気分になる。匂いは私たちの遥かな記憶を呼び覚ます。幼い頃の、匂いだけが鮮明に立ち上る思い出、暮れなずむ小道に立ちつくす記憶…。いつか JCF を想い出す時、私にはきっと暖かなボルシチの匂いがするでしょう。(布山)

■事務局日誌■

< 7 月 >

- 1 日 ベラルーシ独立記念日パーティ(ベラルーシ大使館) スタディツアー説明会
- 3 日 「公民館と市民活動」(梓川公民館)
- 5 日 第 10 回信毎賞記念式典
- 9 日 ゴメリ州立病院との定時衛星通信(信州大学)
- 11 日 NPO 学習会
- 12 日 山梨英和高校学生来局
第 2 回 JCF 講座「自然エネルギー」
- 14 日 第 69 次訪問団出発
- 16 日 ゴメリ州立病院との定時衛星通信(信州大学)
- 20 日 第 69 次訪問団帰着
- 23 日 スタディツアー出発
ゴメリ州立病院との定時衛星通信(信州大学)

- 30 日 ゴメリ州立病院との定時衛星通信(信州大学)

< 8 月 >

- 7 日 ゴメリ州立病院との定時衛星通信(信州大学)
- 9 日 第 3 回 JCF 講座「我が家のエネルギー、地域のエネルギー」
- 11 日 アロマライフ安曇野
- 17 日 ベラルーシ医科大学産婦人科主任招聘(22 日まで)
- 20 日 ゴメリ州立病院との定時衛星通信(信州大学)
- 27 日 神田香織さん事務所スタッフ、あがたの森講堂下見
ゴメリ州立病院との定時衛星通信(信州大学)

< 9 月 >

- 2 日 グランドゼロ会員さん訪問・森田さん取材
- 3 日 グランドゼロ・電算印刷さんとの打ち合わせ
ゴメリ州立病院との定時衛星通信(信州大学)
- 5 日 NGO 相談員連絡会
- 8 日 アロマライフ安曇野
10 月 15 日 イベント・スタッフミーティング(松商学園)
- 10 日 ゴメリ州立病院との定時衛星通信(信州大学)
- 11 日 長野 NPO センター・講演(Mウイング)
- 12 日 NPO 学習会
- 17 日 ゴメリ州立病院との定時衛星通信(信州大学)
- 24 日 ゴメリ州立病院との定時衛星通信(信州大学)
- 27 日 チェルノブイリ連絡会(カタログハウス)
- 29 日 第 70 次訪問団出発(10 月 7 日帰着)

JCF / 日本チェルノブイリ連帯基金

●本部 〒390-0303
長野県松本市浅間温泉 2-12-12
TEL 0263-46-4218 FAX 0263-46-6229
E-mail jcf@jca.apc.org
Website <http://www.jca.apc.org/jcf/>

●東京 〒164-0003
東京都中野区東中野 4-4-1 ポレポレタイムス社気付
TEL03-3227-1405 FAX03-3227-1406
●京都 〒607-8405
京都府京都市山科区御陵田山町 13-3
TEL075-591-7772

アレクセイと泉

Алексей и Крыница

上映予定

上映日	上映場所	問い合わせ先・備考
・10/25(土)	長崎県 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館	095-814-0055(深堀)
・11/2(日)	岐阜県 可児郡中公民館	0574-67-4841(小栗)
・11/7(金)	熊本県 熊本市	監督参加
・12/7(日)	東京都 武蔵野市武蔵野公会堂	0422-20-8393(岡田) 監督参加
2004 年		
・1/31(土)	埼玉県 狭山市富士見公民館	042-959-3419(橋本)
・2/8(日)	東京都 板橋区立エコポリスセンター	03-5970-5001 監督参加
・2/14(土)	神奈川県 南足柄郡	0465-74-2777(高橋)
・3/25(木)	神奈川県 海老名市文化会館	監督参加

※上映予定は変更になることがあります。
サスナフィルムにご確認下さい。

情報提供・サスナフィルム (03-3227-1870)

アレクセイと泉

Алексей и Крыница

「アレクセイと泉」の DVD・VHS と、「ナージャの村」の DVD が同時発売されました。

◆アレクセイと泉



DVD : 4700 円 (税別) / VHS : 5400 円 (税別)
* DVD は写真集、未公開メイキング、登場人物紹介などの特典付き。
2002 年作品 / 日本語字幕 / カラー / 104 分 / ポレポレタイムス社
ベルリン国際映画祭ベルリナー新聞賞受賞 / サンクトペテルブルグ
映画祭グランプリ、ほか

◆ナージャの村



DVD : 4700 円 (税別) / VHS : 5400 円 (税別)
* DVD は写真集の特典付き。
1997 年作品 / 日本語字幕 / カラー / 118 分 / ポレポレタイムス社
ベルリン国際映画祭正式招待作品 / エコメディアグランプリ / ハワイ
映画祭グランプリ、ほか

問い合わせ：
ポレポレタイムス社 TEL 03-3227-1405 FAX 03-3227-1406